

【大阪】新病院は常勤医師300人・医師事務作業補助者180人・看護師680人を配置予定-谷美智子・医誠会国際総合病院医師・経営学修士に聞く◆Vol. 2

2023年6月9日（金）配信 m3.com地域版

医療法人医誠会は2023年10月、「医療と劇場とAIと」をコンセプトに、先進医療を備えた医誠会国際総合病院（大阪市北区・560床）と文化施設を加えた医療複合施設i-Mall（アイモール）をオープンする。2025年の大阪・関西万博を控え、国際化が進む大阪で求められる医療について、同院の医師で経営学修士でもある経営戦略企画室長の谷美智子氏に聞いた。（2023年4月17日インタビュー、計2回連載の2回目）

▼第1回はこちら



医誠会国際総合病院

—病院やi-Mallの特徴について教えてください

i-Mallは日本では珍しいにぎわい機能を持つ医療複合施設です。その特徴を生かし、地域社会の活性化や「国際健康医療ツーリズム」にも貢献したいと考えています。i-Mallの中でにぎわい機能を担う劇場では、今年度で24回目の開催となる市民公開医学講座「健康フォーラム」をさらに拡大し、SDGsを意識した国際的なフォーラムなども開催予定です。さまざまな価値観が広まる社会で、医療とアート、ダイバーシティや生物多様性の融合により、新たな健康文化の発信基地として、地域医療の発展を促進するのが狙いです。同時に院内でのアートイベントなどを通じて、コミュニティの形成や交流も可能です。

生物多様性としては、院内・院外の緑化計画に基づき、桜並木の整備をはじめシンボルツリーの桂などたくさんの木を植えました。入院中や通院中の患者さんはもちろん、地域住民の皆さんにも季節の移ろいを感じ、自然に親しむことで心身ともにリフレッシュしていただけたらと思います。また、医誠会国際総合病院の屋上では養蜂やハーブの完全無農薬栽培に取り組みますので、ヘルシーカフェ「さくらテラス」で提供される「医誠会ハニー」や「カモミールティー」をぜひお楽しみいただけたらと思います。医誠会ハニーとしてはすでに昨年から、当法人のグループ病院の屋上でミツバチの飼育および採蜜を行っているのですが、春蜜はとても涼やか、秋蜜は濃厚かつまろやかで、季節を感じられるおいしさですよ。



i-Mall内の劇場

i-Mallには、がん患者さんのためのサロンや出産後のお母さんのための助産師講座、入院中や通院後の息抜きの場としても利用できるヘルシーカフェや、劇団の公演や学会、市民公開講座や各種販売会、展示会やオンラインコンサートなどができる公開収録のスペースもあります。劇場を使用する劇団員や扇町公園とも協業を企画しています。

また、医誠会国際総合病院は大阪市の民間総合病院で唯一、大阪・関西万博の共創パートナーに認定されています。大阪・関西万博に訪れる多くの外国人に向けて「国際健康医療ツーリズム」を掲げ、高度先進医療を提供することはもちろん、人間ドックなどの予防・先制医療、宿泊ホテルや近隣の医療施設との救急搬送連携や旅行中の透析サポートなど、医療の不安なく大阪へ来ていただけるよう注力していきます。また、国際標準に沿った医療を提供していくために2024年にJCI認証を取得することを目標に体制を整えています。

—外国人向け医療サービスについて教えてください。

医誠会国際総合病院では国際診療部を設け、外国語と各国文化を専門とする職員が専従で対応します。医師、看護師、医療通訳が英語、看護師と営業スタッフが中国語、医療通訳がフランス語での対応が可能です。外国人対応を専門とするため、所属する職員は全員外国語を母国語とするネイティブスピーカーで日本語話者でもある、もしくは医療通訳の資格を持つ日本人であり、外国語を使用した診察協力が主要業務となります。そのほか日本人医療従事者として採用している外国語話者の職員としては、英語59人、中国語14人、韓国語7人、ヒンディー語3人、ポルトガル語1人、スペイン語1人が在籍します。外国籍の医療従事者としては特にケアスタッフが多数在籍しており、緊急時は上記以外にもベトナム語、フィリピン語、ネパール語、スワヒリ語も対応可能です。

医誠会病院ではすでにダイバーシティを意識した多言語での対応が可能ですが、医誠会国際総合病院では正式に国際診療部を設けることで、患者さんも外国語が話せない職員も安心して診療ができるように体制を強化しています。病院食をはじめ、i-Mall内のカフェは宗教上の制限がある外国人患者さんも利用できるようになっています。また、全室個室仕様なので病室での礼拝も可能です。医療通訳はもちろん、文化や生活空間にも配慮した医療サービスを提供して、外国人患者さんにもペイシエント・ファーストの理念に基づいて全面的なサポートができる体制を整えています。

—医療人材をどのように確保していきますか。

まずは医療従事者が働く環境を整えることを最優先にしています。職員が働く上で、働きやすさと働きがいを感じられることが大切です。医誠会国際総合病院では医誠会病院に引き続き「タスクシフト」「タスクシェア」の推進に力を入れています。例えば、常勤医師は最終的に300人配置予定なのですが、医業に専念するために、書類作成などの事務作業を行う医師事務作業補助者を最終的に180人配置予定です。医師がタスクシフト・タスクシェアを行う看護師や薬剤師に関しても同じです。医誠会国際総合病院では看護師は約680人配置予定、薬剤師は約120人配置予定です。2025年度には看護単位5:1での配置ができるよう、計画的な採用を進めるため、2024年には新卒だけで看護師は120人、薬剤師については37人を採用予定です。医師が携わっていた看護や薬剤に関する業務を看護師と薬剤師にタスクシフト・タスクシェアすることで、医師の業務時間と負担を軽減できます。

徹底したタスクシフト・タスクシェアで負担が軽減され時間が捻出できれば、医師は資格取得の学習や専門技術の修練にあてることができます。そのため、当院では医師のみならず全ての医療従事者の資格取得をバックアップしていきます。例えば、医師のタスクシフトが期待できる看護師の特定行為研修では、勤務しながら研修を受講することができ、研修受講時間も勤務時間扱いとします。認定看護師教育課程に特定行為研修が組み込まれている場合も、研修扱いとして給与を支給します。また研修費用は全額を病院が負担しています。

採用に関しても医師、看護師、ケアスタッフ、コメディカルなど、それぞれの部門に専任の採用スタッフがいて、採用から入職後のフォローまでを一貫して行います。また、入職後も安心して医業に専念できるよう、警察OBを3人と法人内弁護士を3人配置し、業務から私生活にわたって広く職員の相談に対応します。

—女性職員の長期雇用に向けたフォロー・サポート・バックアップ体制について教えてください。

医療法人医誠会は女性職員の比率が高く、法人全体で女性職員が72%、女性役職者が67%在籍しています。最近では共働き家庭が増加しているため、老若男女問わずお子さんを持つ職員に安心して働いていただける環境づくりを推進しています。

医誠会国際総合病院では敷地内に認可保育園と、国際化に向けて英語教育に力を入れた幼保一体型のバイリンガル保育園を設けます。また、生後6カ月から12歳までのお子さんが利用できる、医誠会国際総合病院の救急診療科と小児科が連携した病児・病後児保育園もあり、職員のお子さんが体調不良の時や、万が一急病の際でも安心のフォロー・バックアップ体制を整えます。これらの保育施設は職員だけでなく、一般の方にも利用していただけるようになっています。



ヘレシーカフェ「さくらテラス」

夏休みにはアートイベントや養蜂体験などを催して、お子さんに院内に入ってもらおう企画もしています。お子さんたちにアートや医誠会ハニーを通じて病院を身近に感じてもらい、人生100年時代にセンテナリアン（百寿者）を目指すために、幼いころから医療や健康情報に触れてほしいと考えています。

コロナ禍のこの3年間では、誰か1人が感染してしまうと同じ職場の職員も出勤できない、総職員数は適正に配置しているのに、実際の現場では自宅待機の職員が増えてしまって人員不足に陥っているという大変な時期もありました。当法人の職員の努力には頭が下がる思いで、私自身も心から感謝しています。状況が少しずつ落ち着いてきた今、今度は医誠会国際総合病院の開院に向けスタッフ一丸となり、一生懸命取り組んでいます。何より医療従事者が健康でないと人は治せません。医誠会国際総合病院が地域医療に貢献しつつ、i-Mallが健康文化の発信地として職員と地域の皆さんの憩いの場になればと願っています。

◆谷 美智子（たに・みちこ）氏

2019年に昭和大学医学部を卒業。初期研修終了後、ホロニクスグループ医療法人医誠会 経営戦略企画室に入職し、2023年に経営学の修士課程を修了。2023年10月に開院するi-Mall「医誠会国際総合病院」のプロジェクトリーダーを務める。

【取材・文＝伏屋じゅん子（ライトスタッフ）、写真は病院提供】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

